

Impact of COVID-19 vaccination on the risk of developing long-COVID and on existing long-COVID symptoms: A systematic review

Natarte KI et al. eClinicalMedicine 2022;53: 101624.

DOI: 10.1016/j.eclinm.2022.101624

全文 URL: <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2589537022003546?via%3Dihub>

COVID-19 ワクチン接種が COVID-19 後遺症発症と症状に及ぼす影響：系統的レビュー

COVID-19 ワクチン接種により急性 SARS-CoV-2 感染の重症化リスクは低下するが、ワクチン接種が COVID-19 後遺症 (long-COVID) の有病率に影響するかどうかは不明である。本論文の著者らは系統的レビューを行い、COVID-19 ワクチン接種と long-COVID の発症と症状との関連について検討した。該当文献を MEDLINE、CINAHL、PubMed、EMBASE、Web of Science および medRxiv、bioRxiv を用いて 2022 年 6 月 20 日まで検索した。文献検索で計 2,584 編の文献が同定され、そのうち 11 編の査読済論文と 6 編のプレプリント論文が本系統的レビューの対象となった。6 編の論文 (n=17,256,654 人) では、急性 SARS-CoV-2 感染前のワクチン接種の影響が検討された。ワクチン接種は long-COVID 発症のリスク低下と関連しており、1 回接種よりも 2 回接種の方がより効果的であることが示唆された。11 編の論文 (n=36,736 人の COVID-19 生存者) では、SARS-CoV-2 感染後 long-COVID 症状のワクチン接種による変化が調査された。そのうち、7 編の論文では、ワクチン接種後に long-COVID 症状の改善を示したが、4 編の論文では、ワクチン接種後に long-COVID 症状に変化がないか悪化したことを報告している。本研究の結果から SARSCoV-2 感染前のワクチン接種が、その後の long-COVID 発症のリスクを減少させる可能性を示唆した。一方、すでに発症した long-COVID 症状に対するワクチン接種の影響については、まだ議論のあるところである。

要約作成者のコメント：

ウイルス変異とワクチン接種の拡大により COVID-19 の急性期の重症化リスクは低下してきました。今回紹介した系統的レビュー論文で対象となった 1 次論文は、観察研究のみ（コホート研究やケースコントロール研究）でありエビデンスレベルとしては限界がありますが、COVID-19 後遺症 (long-COVID) の問題も大きくなりつつある現在、参考になる文献と考え紹介致しました。

要約作成者：昭昭和大学 統括研究推進センター /
医学部内科学講座腎臓内科学部門

長谷川 毅